

## 第2回建設業活性化検討委員会でいただいた主なご意見と対応方針（案）「該当番号」：新プラン第3章の(3)の左端の取組番号

番号	分野	主なご意見	対応方針	該当番号
1		・動画は情報量が多く、非常に子供たちに届きやすいので、動画を活用してもらいたい。	動画作成を検討中。	9
2		・マーケティングの考え方にある STP 分析（S セグメンテーション：市場細分化、T ターゲティング：狙う市場の決定、P ポジショニング：立ち位置の明確化）が重要。「誰に対して」、「どんな魅力を」、「何のために」、「いつ伝えるのか」、というところまで細かく分析してその情報ごとの動画を作っていくことが大切。時間も3分程度で良いので、複数本制作するのが良い。	専門家のアドバイスを受けながら動画作成を検討する。	9
3		・若者が憧れの YouTuber の動画か、高知県の建設業の動画のどちらを見るかということ視野に入れながら、必要な情報や分量、タイトルを考えて作ることが大事。	専門家のアドバイスを受けながら動画作成を検討する。	9
4	動画作成	・現場体験などで実際に体験した生徒の動き、様子、声などを作成する動画に取り入れれば、より身近に感じてもらえる。	今後、現場体験の動画作成も検討。	9
5		・PTA 総会において、建設業界を前面に出すのではなく、いろいろな取組の中に建設業に関わることを盛り込んだ動画を作成し上映すれば、イメージアップにつながり、興味関心のヒントになる。	教育委員会と協議して、PTA 総会等での動画の上映を検討。	5
6		・最近は学生や母親も好きなテレビ番組を選択し、録画で見るのでCMが行き届かない一方、YouTube で気に入ったものを連続して見続ける。見たいものを選択して見るようになってきているということ意識しなければならない。	動画作成等の広報手法を検討。	9
7		・建設業を PR する材料には、使命感や達成感、仲間と協力して一つのものを作り上げていく喜びなどを見せることができればよい。最初から最後まで全てを見せることは難しいので、3分程度の動画を作成し、何も無いところが最終的にこうなりましたというものを現地で見せられたら。	橋梁などの構造物の完成までの写真等を重ねる動画の作成を検討。	9
8		・広告手法も大々的に CM の本数を打つより、小さなグループの明確なターゲットに向けて発信し、その仲間内が広げるといったやり方に変化している。	動画やインスタグラムなどの新しい情報発信の手法の検討が必要。	9
9		・従来のパンフレットや他県がやっていない新しいやり方を取り入れていく必要があるのではないかと強く感じている。	新しい手法による作成を検討。(R3.6 に中学生向けのパンフレットを制作し、県内の全中学3年生に配付済)	7
10		・まず興味を持ってもらうために、生徒の意見を聞きながら、もしくは生徒自身に考えさせるなど、これまでにない新しいやり方を実行していかないと、いくらお金を使っても難しい。	中高校生から意見を取り入れることを検討。	4,5,18
11	情報発信	・動画作成の労力をかける前に、インスタグラムで写真を掲載し、ハッシュタグを付けて投稿する手段もある。ハッシュタグで「高知県建設業」に関連付けてキーワードを多く投稿すれば、いろいろな繋がりが生まれてくる。例えば、防災フェスタでハッシュタグを付けてもらい、抽選でグッズプレゼントするのはどうか。	いろいろな場面でインスタグラムの活用を検討。	9
12		・子供たちのプラスになり、心に残るものが大事と考える。オーテピア科学未来館の実験講座のように、ショー的なものを入れる観点を大事にして、保護者も巻き込めば、子供たちの心にも残る。	若者の心を引きつける効果的な手法を若者も交えて検討。	3
13	人材確保	・建設業者は、災害が発生したときに、矢面に立ち、地域を守っている。災害対応に必要な体制を維持していくためにも、事前に若者を入職させることが非常に必要。	小中高生から建設業へ興味を持ってもらう取組を検討。	1~11
14		・良いところばかり見せても、入職した後にイメージと違っていると、すぐに辞めてしまうことになるので、しんどいところがあることも事前に見せることも大事。	職場体験などの際に、説明内容の一環で触れることを検討。	1,3,4~7
15	出前授業/現場体験	・用意周到に準備して出前授業と現場見学会を一緒にやればどうか。例えば、津波の波の伝わり方の学問的な理屈を午前中に教えてから、浦戸湾の3重防護にどのように伝わってくるかを見せる。積分や物理の理論が実際にどのように活用されているかを知ること、今勉強していることが将来どのように役立つのか、具体的なイメージとして持つこともでき、理屈と現場がつながりおもしろいと思うのではないかと。 ・廣井勇という佐川町出身の土木技術の偉人を輩出した高知であり、そうした背景を説明しながら防波堤もセットで見せる。道路や河川でも同じような考え方で見せることができるので、出前授業と現場見学会がつながり子供たちの心を打つようなものにする。	出前授業や1日体験のやり方、教材の作り方などを県土木技術職員、建設業協会支部、工業高校等で検討していく。	1

16	出前授業/現場体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場体験と裏付けとなる理論をセットにして行うことは、興味のある生徒と、興味のない生徒に2極化する。非常に融通が利く少人数の学校へのアプローチの仕方と、1クラス40人程度が複数クラスのある大きな学校へのアプローチの仕方は分けて考えた方がよい。</li> </ul>	教育委員会と協議の上、学校の規模によって、取組内容を変えて呼びかけることを検討。	1
17		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の理解を深めてもらうことが、高校を卒業して就職する際に、大事な一つの要因になるので、1日体験は、保護者向け、生徒向けにどうするのかという観点をもって柔軟に行えばよい</li> </ul>	ご意見を受けて、開催予定。	1
18	女性活躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こうち防災フェスタ」でユニフォームのファッションショーをアピールして盛り上げていければ。</li> </ul>	関係者によるファッションショー検討会を開催するも、ユニフォームの新規制作は、R3年度は間に合わないため、R4年度に向けて検討。	17
19		<ul style="list-style-type: none"> <li>同会場に女子学生からの建設業就業に関する質問を受けるブースを設ければよい。</li> </ul>	R3年度実施に向けて検討中。	19
20	デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化に関して、市町村事業では新技術の活用が進んでいない状況。</li> </ul>	研修会や発表会などを通じて市町村への普及を検討。	26
21		<ul style="list-style-type: none"> <li>これからはDX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉項目に入れておくべき。</li> </ul>	タイトルにDXを表記。	26～30
22		<ul style="list-style-type: none"> <li>建設分野で、マネジメントができる人材や、高度な技術力を持った人材を含めて、広い視野で一体的に受け入れていくことが会社の発展につながると考えて、高度人材の活用を図る取組が必要。</li> <li>「技術・人文知識・国際業務」という在留資格にあたる。特に、建設会社において施工管理で外国人材を活用した場合、同じ国の技能実習生を入れることで、母国語による意思疎通を行うことができ、マネジメントと現場の管理がうまくいき、生産性が上がっていく。</li> </ul>	高度人材の活用も今後、検討。	21
23	外国人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設業は、他の職種と異なり、外国人材が作業できる範囲が細かく分かれており、制度が活用しづらい状況になっているため、国に提言したい。</li> <li>技能職は、現場において1種類の作業ができるだけではだめで、様々な資格を持ち、いろいろなことができる多能工と呼ばれる形態が基本。いろいろな資格が必要となるので、外国人材の活用において1番のネックとなっている。</li> </ul>	政策提言に向けて検討。	22
24		<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れる外国人の国の大きさを考えながら、ある程度まとまった方が、来てくれる人にとっても幸せに仕事ができるという側面があるので、ある程度、対象国を絞ることも必要。</li> </ul>	費用対効果を意識しながら絞り込みを行う。	21
25		<ul style="list-style-type: none"> <li>効果の検証と見直しは、県だからこそ大切。モニタリングにもしっかり力を入れてもらいたい。</li> </ul>	毎年、取組結果を検証したものを、外部委員会に報告し、ご意見をいただきながら取組内容を見直していく。	—
26	進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>KPIだけ満たせばいいということではなく、本来の目的を達成するための取組をしてほしい。</li> </ul>	目標値の達成状況だけでなく、目的達成に向けた取組内容なのか、検証を重ねていく。	—
27		<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を立ててやることも必要だが、数値が実態を表していないことがあるため、現場では数値がつかみにくくなっている。「関心を持っていた様子」を観察するなど、子供の反応を見て効果を判断する仕方を組み込んで実施することが大事。</li> </ul>	目標数値以外の把握方法がないか検討。	—
28	優先順位	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度に何もかもは難しいので、できそうなところから、受ける側の生徒を主役にした戦略を持つことが大事。</li> <li>全ての項目に力を入れてやることはできないと思うので、効果のある項目を絞りながら手探りでやっていくことが大事。</li> </ul>	優先順位を付けながら、ニーズがあり、効果の高いと思われるものから取り組んでいく。	—